

大学院（地域医療教育学分野）

26年度は博士課程に5名、修士課程に1名の大学院生が入学しました。

「地域医療・総合診療・家庭医療、医学教育分野の領域において、研究テーマの設定、研究の計画・実施、結果解析、論文発表のプロセスの実践を通して、独立して研究を実施・指導できる能力を修得する」ことを教育目標として、リサーチセミナー、研究ワークショップを開催しました。

リサーチセミナーは毎週金曜日14:30-17:30、地域医療システム研究棟2F討議室にて開催しました。内容としては研究計画検討および進捗報告、関連論文の抄読会を行っていましたが、年々セミナーの参加人数が増え、個人の発表や発言の機会が少なくなっていることが問題となりました。大学院生の片岡義裕先生からのご提案で、夏休み明けからリサーチセミナーをチーム制とし、前半を全体で行った後、後半は2チームに別れて活動するようにしました。後半のチームの時間はグループサイズが小さくなること、決まったチームメンバーで討論できるのでお互いの研究テーマについてより深く理解し合うことができるようになり、大変有意義な時間となりました。

研究ワークショップは研究手法を集中的に学べる半日コースのワークショップとして、平成26年度は7月12日に「論文の書き方の基本」をテーマに実施しました。原著論文の構成の基本を理解することを目的として、高屋敷明由美先生の論文の書き方についてのレクチャーの後、実際の論文のブラッシュアップのワークを行い、実践的に学べる時間となりました。最後に昨年度、英文論文を発表し大学院を修了した中澤一弘先生、栗原 宏先生から、投稿の実際と査読者とのやりとり、アクセプトまでの道に関するお話がありました。実際の論文発表の経験談を憧れの眼差しでうかがいました。ぜひ皆で、後に続ければと思います。

嬉しいニュースとして、2013年に *General Medicine* に掲載された高木 博先生の論文「*Diagnostic Characteristics of Symptom Combinations over Time in Meningitis Patients*」が、優秀論文賞(英文誌)に選ばれ、岡山で開催された第5回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会で表彰されました。また、博士課程4年の伊藤 慎先生の初期研修医のストレス対処能力と抑うつに関する研究論文が、*Medical Education* に掲載されました。伊藤 慎先生の論文は掲載号の「in this issue」に選ばれ、伊藤先生へのインタビューがPodcast配信されました。地域医療教育学分野からこのような素晴らしい論文が発表されたことは快挙だと思います。

伊藤先生は学位審査にも無事に合格され、大学院を修了されました。今年度も学位取得者を出すことができ、とても嬉しく思いました。

今後も、プライマリ・ケアの現場からの疑問を科学的手法を用いて明らかにし、現場で役立つエビデンスを広く発信し、プライマリ・ケア、地域医療に貢献することを目指していきたいと思えます。

リサーチセミナーメンバー

< Trainer >

前野哲博、釋 文雄、前野貴美、高屋敷明由美、栗原 宏、中澤一弘、堤 円香、佐藤幹也

< Trainee >

大学院生

博士課程 4年次 伊藤 慎、河村由吏可、宮澤麻子

3年次 木下賢輔
2年次 小曾根早知子、片岡義裕、後藤亮平、斉藤さやか
1年次 明石祐作、五十野博基、市川卓生、鈴木 諭*、舛本祥一、吉澤新太郎
修士課程 2年次 皆吉智之
1年次 川口修平

<スタッフ>

阪本直人、浜野 淳、横谷省治

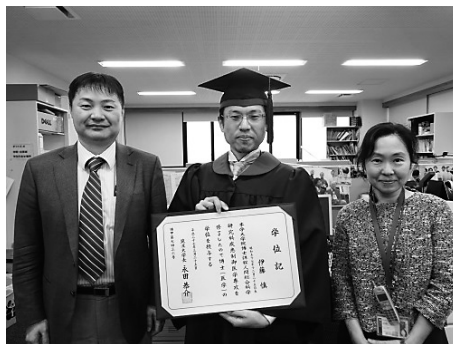
<病院登録医>

渡辺裕美（在宅緩和ケアクリニックきずな）、高木 博（大和クリニック）

*ディスタントコース



26年度リサーチセミナー



学位取得おめでとうございます！

（地域医療教育学分野 前野貴美）